

◆ 暖房器具による火傷

めっきり寒くなった今日この頃ですが、暖房器具による火傷が増えてくる時期でもあります。当然熱すぎるものによって起こるのが一般的な火傷ですが、熱いとは感じないもので起こるのが低温火傷です。最近ではエコブームの中で湯たんぽを使用される方が増えてきたので、これによって低温火傷を起こす事象が意外と多くみられます。他にも温風ヒーター、ホットカーペット、ヒーター付便座なども原因器具として挙げられます。



◆ 低温火傷を起こす原因

一般的に熱いと感じない程度の熱さ(50℃前後)の物に数十分～数時間、体の一部が圧迫されていると低温火傷を起こしてしまうそうですが、温かくて気持ちがいいと感じる程度の熱さ(45℃前後)でも長時間接触していると起きてしまうこともあるそうです。

◆ 低温火傷の症状と治療法

火傷の重傷度の目安として患部の『範囲』と『深さ』があります。

低温火傷の場合は見た目があまり酷くないので、多くの方が特別な治療をすることなく暫く様子を見てしまうのですが、だんだん患部の状態が悪くなり、結局何日も経ってから病院にかかるケースがよくあるようです。

実は低温火傷した部分の細胞は、いわゆる壊死した状態になっているので、非常に細菌感染しやすく、且つその周辺の細胞も強く炎症を起こしています。したがってこの壊死した部分が取り除かれなくなかなか良くなってきません。

治療方法としては、化膿止と消毒剤を使用して壊死した部分がかさぶたとして剥がれ落ちるのを待つものから、壊死部を強制的に取り除いて行う湿潤療法などがありますが自分ではなかなか出来ないので、低温火傷かなと思ったら早めに病院を受診することをおすすめします。

